



0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 5mm | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5

始



鶴龜



梗概 每年宮庭の節會に帝王威儀を正して、玉座奥深く出御し給ふ處
 百官卿相は袖を連ねて參向し賀詞を奉呈すれば、萬民亦た聲を揃へて
 幸せする、その響は天に轟くばかりなり、金銀の砂を敷きつめねば
 庭土には、千代万代を壽く鶴と亀との舞を観覽はせられ、帝
 王御恩の餘りに躬う立つて舞樂を奏し、妙なる花の袖を返し給へば、山河草木
 は自然に恩澤に霑ひ、國土萬民は自ら豊饒なるべしと歡を盡して舞ひ
 納め、長生殿にぞ還御し給ひける。實に聖代の御世万歳を稱へたる、
 芽出度き一曲なり。



シテ 子方 皇子
帝 鶴 龜
全人 二臣

季 所 春 唐土

口品、雷序

鶴 龜

サレ上

引矢をまつて、弓のまちよなれば、四季すれそる會の
事始め、不老門まで、謂月の光を天子
乃君賢ふく、百官に相ふるまで、
袖をまづねくひきをうつしぞ、
百万余人をして、もとまももむろ、方戸比す。

詞
いづよまめゆすやへやうれひ、あ年乃
めく鶴ゑよ音せき、年は月を底
よて、年出成、まよせきあまよ
日上、二二二二一、一、一、一、
龜と万年のとくわきて、鶴もふ代
一、二、二、二、二、三、
をあ、ゆきぬん、ダイ す代の例比物、キモ
六、二、二、二、二、二、二、二、
鶴をひりま、姫小松乃みどり比鬼

も舞衣へば丹頂の舞もすず車乃よ
ひを身よさづけきり座上よさん
こすりやされば帝を拂せれ余りにや
舞衣の秘曲をまより 楽^音月を
扇乃向衣の被^被も色と妙ある
花の神秋も時向比ひ葉の葉神舞

さえゆく者比狹ちひるぐく衣も着
むかた乃あみの上人乃舞樂比舞
姿^姿やう羽衣比せをもせが山河を本
國ゆうふ代万代といは野路へば
すく駕^{ヤク}唐打^{タヂ}済^{セイ}をもやめあらよ
ひも長生殿^{マダム}君の歌も長生殿に

401
28



有 所 權 他 著

昭和十五年二月十五日印刷

昭和十五年二月二十日發行

定價金五拾錢

東京市下谷區上野櫻木町四丁八番地

著作者 寶生

新

發行兼印刷者 東京市京橋區銀座西六丁目三番地

江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流譲本刊行會

遂帰する。我身をよしとす。

終

